

きょう かいがいじんざいかつよう ちゅうかんあん たい ふみん みなさま いけんぼしゅうけつか
 「KYOの海外人材活用プラン」(中間案)に対する府民の皆様からの意見募集結果

へいせい ねん がつ にち
 平成16年12月21日

ちじちよつかつそしきこくさいか
 知事直轄組織国際課

でんわ
 (電話075-414-4311)

きょう かいがいじんざいかつよう ちゅうかんあん ふみん みなさま いけん ぼしゅう
 「KYOの海外人材活用プラン」(中間案)について、府民の皆様からご意見を募集
 いたしましたところ、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

よ いけんおよ たい ふ かんが かつ かき こうひょう
 お寄せいただいたご意見及びこれに対する府の考え方を下記のとおり公表いたします。

また、提出された府民の皆様のご意見を十分に考慮し、「KYOの海外人材活用
 プラン」をとりまとめましたので、あわせて公表いたします。

き
 記

いけんぼしゅうきかん
 1 意見募集期間

へいせい ねん がつ にち か へいせい ねん がつ にち もく
 平成16年10月19日(火)～平成16年11月18日(木)

いけんでいしゅつしゃすう
 2 意見提出者数

めい
 30名

いけん ようし たい ふ かんが かつ
 3 意見の要旨とこれに対する府の考え方

べつし
 別紙のとおり

さんこう
 参 考

- きょう かいがいじんざいかつよう さくていいんかいいん
 ・「KYOの海外人材活用プラン」策定委員会委員
 さんよ
 (参 与)

しめい 氏名	やくしょくとう 役職等
すどう しんじ 須藤 眞志	きょうとさんぎょうだいがくきょうじゅ 京 都 産 業 大 学 教 授
なかむら じゅんいち 中 村 順 一	ざい こくりつきょうとこくさいかいかんかんちょう (財)国立京都国際会館館長

いいん
 (委員)

しめい 氏名	やくしょくとう 役職等
ありた みちよ 有田 典代	とつかつ かんさいこくさいこうりゅうだんたいきょうぎかいじむきよくちょう (特活)関西国際交流団体協議会事務局長
ごん すちん 権 修 珍	きょうとふめいよゆうこうたいし そのだじよしだいがくこうし 京 都 府 名 誉 友 好 大 使 (園 田 女 子 大 学 講 師)
さがね まこと 相 根 誠	きょうとちいきりゅうがくせいこうりゅうすいしんきょうぎかいいん 京 都 地 域 留 学 生 交 流 推 進 協 議 会 委 員
しみず いくこ 清 水 郁 子	ざい だいがく きょうとしゅかん (財)大 学コンソーシアム京 都 主 幹

しめい 氏名	やくしょくとう 役職等
しゅう いせい 周 瑋生 ざちょうだいら (座長代理)	りつめいかんだいがくせいさくかがくぶきょうじゅ 立命館大学政策科学部教授
にいのべ きよし 新 延 清	かぶ こくさいでんきつうしんきそぎじゅつけんきゅうしょたんとうかちょう (株) 国際電気通信基礎技術研究所担当課長
ふじわら としゆき 藤 原 敏 之	ざい きょうとふこくさい じょうむりじ (財) 京都府国際センター常務理事
ほそお まさお 細尾 真生	しゃ きょうとけいざいどうゆうかいこくさいもんだいけんきゅういいんかい (社) 京都経済同友会国際問題研究委員会 いいんちょう 委員長
むねた よしふみ 宗 田 好 史 ざちょう (座長)	きょうとふりつだいがくにんげんかんきょうがくぶじょきょうじゅ 京都府立大学人間環境学部助教授
もり じゅんいち 森 純 一	きょうとだいがくりゅうがくせい きょうじゅ 京都大学留学生センター教授

さくていいんかいさいじょうきょう
・策定委員会開催状況

へいせい ねん がつ にち すい 平成16年 6月 9日 (水)	だい かいさくていいんかい 第1回策定委員会
へいせい ねん がつ にち げつ 平成16年 7月 5日 (月)	だい かいさくていいんかい 第2回策定委員会
へいせい ねん がつ にち きん 平成16年 8月 6日 (金)	だい かいさくていいんかい 第3回策定委員会
へいせい ねん がつ にち げつ 平成16年 8月 23日 (月)	ちじ さんよ いけんこうかん 知事と参与の意見交換
へいせい ねん がつ にち か 平成16年 9月 14日 (火)	だい かいさくていいんかい 第4回策定委員会 せいさくちょうせいかいぎ 政策調整会議
へいせい ねん がつ にち げつ 平成16年 9月 27日 (月)	だい かいさくていいんかい 第5回策定委員会
へいせい ねん がつ にち か 平成16年 11月 23日 (火)	けいえいせんりやくかいぎ 経営戦略会議
へいせい ねん がつ にち きん 平成16年 11月 26日 (金)	だい かいさくていいんかい 第6回策定委員会

べっし
(別紙)

「KYOの海外人材活用プラン」に係る意見の要旨とこれに対する府の考え方

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考え方</p>
<p>てんかい 展 開 1 : かいがいじんざ 海 外 人 材 しょうち の 招 致 すいしん かん 推 進 に 関 する意見 いけん</p>	<p>なんかこくご じょうほうはっしん ○何ヶ国語での情報発信 かんが を考 えているのか。</p>	<p>かのう かぎ たげんご じょうほう はっしん ○可能な限り多言語による情報発信 かんが ひようたいこうか したいと考 えておりますが、費用対効果 など かんあん えいご ちゅうごくご 等を勘 案し、まず英語、中国語、ハン グルの3ヶ国語によるシステム構築を考 えています。 こんご ふ と ま こくさいか じょうきょう 今後は、府を取り巻く国際化の状 況 へんか がいこくせきふみん どうこうとう み の変化(外国籍府民の動 向等)を見な らたいおう けんとう かんが がら対 応を検 討したいと考 えています。</p>
	<p>りゅうがくせい ○「留 学 生アドバイザー」 ひじょう きょうみ せさく は非 常に興 味のある施策で ぜひさんか ある。是非参加してみたい。 きこく きょうとふめいよゆうこう ○帰国した京都府名誉友好 たいし ちゅうしん かがい 大使を中 心とした海外 きよてん かがい 拠 点をつくり、海外への じょうほうはっしん かがい 情 報 発 信 をしたり、海外 ゆうしゅう けんきゅうしゃ の優 秀な研 究 者や がくしゃなど きょうと しょうち 学 者等を京 都に招 致すれ ばいいのではないか。</p>	<p>ほん きょうとじょうほう かがい ○本プランでは、京 都情 報の海 外へ こうかてき はっしん ぐたいてきせさく の効果的な発 信のための具体的施策とし て、京 都府名 誉友好大使をはじめとする きこく りゅうがくせい きょうと 帰国した留 学 生による、京 都への りゅうがくきぼうしゃ たい きょうとじょうほう 留 学希望者に対する京 都情 報の ていきょう そうだんなど おこな 提 供や相 談等を行 っていたたく りゅうがくせい せいど けんとう 「留 学 生アドバイザー」制度を検 討し ています。 せいど そうせつ きょうとふ ○この制度を創 設することにより、京 都府 めいよゆうこうたいし きこく 名 誉友好大使をはじめ、帰国された りゅうがくせい こうちく 留 学 生とのネットワークを構 築し、こ こうりつてき かつよう れを効 率的に活 用することにより、 りゅうがくせいなど ゆうしゅう かがいじんざい 留 学 生等多くの優 秀な海 外人 材 きょうと しょうち かんが を京 都へ招 致したいと考 えています。</p>
	<p>かがいじんざい ちいき むす ○海 外 人 材と地 域との結 び じゅうよう つきは 重 要であり、 りゅうがくせい ちいき かつどう 留 学 生が地 域の活 動に さんか くふう 参加できるような工夫をすべき である。</p>	<p>かがいじんざい ちいき かつせい かくさいか ○海 外 人 材が地 域の活 性化や国 際化の たよう のうりょく はつき ためにその多 様な能 力を発 揮してもらえ るよう、日 常 的な活 動の場 づくりを進 めます。 たと りゅうがくせいなど ちいき 例 えば、留 学 生等が地 域づくり、 さんぎょうかつせい さんかく 産 業活 性化に参 画できるようなワーク ショップの開 催や日本に滞 在 中の</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>てんかい 展 開 1 : かいがいじんざ 海 外 人 材 しょうち の 招 致 すいしん かん 推 進 に関 する意見</p>		<p>けんきゅうしゃとう せんもんぶんや 研 究 者 等 がその専 門 分 野について ちいき こ こうえん こ 地 域の子どもたちに講 演するなど、子ども こくさいかんかく じょうせい たちの国 際 感 覚の醸 成につながる とりくみ すず 取 組を進めます。</p>
	<p>さまざま じょうほう にほん ○様 々な情 報が日 本語ベ ース (情 報が日 本語のみと いうことだけでなく、ホームペー ジの作 成者も日 本人) である のは、留 学 生にとっては しょうがい ひと しん 障 害の一つである。真のグ ローバル化を目指しているのでは あれば、そういうところからのシス テムづくりを 考 えるべきであ る。 ○ホームページ作 成等 じょうほうさくせい 情 報作 成に当たっては、 ぜひ がいくじん 是非ネイティブの外 国 人に さんか かんが 参 加してもらうべきだと 考 え る。 ○外 国 人の視 点に立 ったホー ムページの多言語化をすべきであ る。</p>	<p>にほんじん じょうほうていきょう ○日 本人への情 報提 供のために さくせい ないよう たん 作 成したホームページの内 容を単に ほんやく がいくじん かつ 翻 訳するだけでなく、外 国 人の方が ひつよう じょうほう がいくじん かつ 必 要とする情 報、外 国 人の方にとつ てわ て分 かりやすいホームページの作 成が求 め られています。 ○そのためには、京 都 府名 誉 友 好 大 使を はじめてする外 国 籍府 民がホームページの さくせい さんか 作 成に参 加していただくことを 考 えてい ます。</p>
	<p>ゆうしゅう じんざい おお ○優 秀な人 材を多く はいしゅつ 輩 出しているインドではこれ までおうべい りゅうがく まで欧 米での留 学や しゅうしょく しこう 就 職を志 向していたが、 べいこく どうじたはつ じけん 米 国の同時多発テロ事 件 いらい にゅうこく え 以 来、入 国のビザを得るこ とが 難 しくなったため、日 本 にとっては、これらの かいがいじんざい しょうち おお 海 外 人 材を招 致する大き</p>	<p>かいがいじんざいかくとくきょうそう はげ ○海 外 人 材獲 得 競 争が激 しくなる なか ぶんやなど ゆうしゅう じんざい おお 中、IT分 野等 で優 秀な人 材を多く はいしゅつ じんざいしょうち 輩 出しているインドからの人 材招 致も ひつよう かんが 必 要と 考 えています。 きぎょう ちいき きぎょうせんりやく ちいき 企 業や地 域の企 業戦 略や地 域 せんりやく ふかけつ きょうと 戦 略にとって不可 欠な京 都の じんてきしげん かいがいじんざい ちいき 人的資 源として、海 外 人 材が地 域の かつせい げんどうりょく どりくみ 活 性化の原 動 力となるよな取 組を すす 進 めていきます。</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>てんかい 展 開 1 : かいがいじんざ 海 外 人 材 しょうち の 招 致 すいしん かん 推 進 に 関 いけん する 意 見</p>	<p>かんが なチャンスと考 える。</p> <p>○ホームページについては、 きょうとふこくさいか み 京 都府国 際 課でしか見られな いような情 報を充 実させ るべきである。</p> <p>○京 都企 業と提 携し、 きぎょう しょうほうはっしん 企 業からの情 報 発 信 (人 材募 集、業 務提 携 など しょうほうなど じゅうじつ 等)の情 報等)を充 実 させればいいのではないか。</p> <p>○掲 示 板やメール等を活 用 し、双 方 向の情 報交 流 ができるシステムを構 築すべ きである。</p> <p>○国 際 化のための交 流 活 動 (例 えば外 国 の学 校 と日 本 の学 校 との交 流 事 業)をしたい時にそのため の情 報等 を提 供してほ しい。</p> <p>○海 外 人 材の招 致は、 にほん しょうらいいみんしゃかい 日 本 が将 来移 民 社 会にな ることである。日 本 では少 子 高 齢 化が進み、労 働 力が 減 少していくが、それを補 うための海 外 人 材活 用ま しや でを視野に入れているのか。</p> <p>○「大 学 のまち京 都」を活 かした海 外 からの人 材 招 致を考 えてほしい。</p>	<p>しょうほうはっしん ○情 報 発 信ホームページについては、 がいく かつ ひつよう しょうほう 外 国 の方 が必 要 としていいる情 報を しゅうしゅう いちげんてき たげんご はっしん 収 集し、一 元 的に多言語で発 信し ていくことが重 要であると考 えていま す。そのためには、求 められている情 報 のニーズを把握するための調 査等を実施 することが必 要 であると考 えています。 また、海 外 人 材に有 益な情 報を はっしん せいび かんけい 発 信するプラットホームの整備を関 係 団 体とともに進めていきます。</p> <p>○また、人 材バンクを創 設し、在 住 がいくじん きぎょう こくさいこうりゅうだんたい 外 国 人 と企 業や国 際 交 流 団 体と のマッチングシステムを構 築し、相 互に 有 益な情 報を双 方 向に交 流でき るプログラムを、民 間 の方 々にも力 を お借りして、構 築したいと考 えています。</p> <p>げんざいとうなん しょこくなど ○現 在東 南アジ 亞 諸 国 等 との F T A こうしょう すす じんざい りゅうどうか 交 渉が進められ、人 材の流 動 化がい ろいろな分野で進むことが予 想 されます。 こんご ふ と ま こくさいか しんてん ふ ○今 後 の府 を取 り巻 く国 際 化の進 展 を踏 まえ、十 分 な府 民 理 解 を得 ながら新 たに せさく けんとう かんが 施 策 を検 討 していきたいと考 えていま す。</p> <p>きょうと だいがく かいがい ○京 都 は「大 学 のまち」として海 外 か ちゅうもく ふないりゅうがくせい らも注 目 されており、府 内 留 学 生 は にん こ こくさいしゃかい む 4,500 人 を超 えるなど、国 際 社 会 に向 けて はっしんりよく ゆう にほん だいひょう の発 信 力 を有 する日 本 を代 表 する</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>てんかい 展 開1： かいがいじんざ 海外人材 しょうち の招 致 すいしん かん 推 進に関 する意見</p>		<p>ちいき かんが 地域であると考 えています。 ○このような京 都の特 徴を活かしたまち づくりが求められており、高 等 教 育の グローバル化に向けて大 学等関係機 関と 連 携しながら、国 際 競 争 力を持つ た魅 力ある教 育プログラムの 実 施や 外 国 人教 員の受 入などを推 進しま す。</p>
	<p>かいがいじんざいとつく しんせい ○「海 外 人 材 特 区」の申 請 にあたり、関 係 省 庁との 協 議は進んでいるのか。 ○能 力重 視の審 査を行 うことにより、より質の高 い 海 外 人 材を受け入れ、 「在 住外 国 人を京 都 府 民と対 等な地 域社 会の 構 成 員として位置づける」こ とができるのではないか。 ○「海 外 人 材 特 区」は、 京 都 府全 域での実 施を考 えているのか。</p>	<p>りゅうがくせい けんきゅうしゃ にゅうこくしんさ ○留 学 生や研 究 者の入 国 審 査の 際の手 続の簡 略 化・要 件 緩 和や 京 都における活 動を活 性 化させるための 資 格 外 活 動許 可等の規 制 緩 和を 図 るな ど、海 外 人 材の積 極 的 な招 致・ 活 用 に向けた「京 都海 外 人 材 特 区」 を今 回提 案したところ です。 ○今 回の特 区の対 象地 域については、 京 都 府全 域を考 えています。</p>
	<p>かいがい きょうとじょうほう ○海 外での京 都情 報の 発 信拠 点「京 都セ ンター」 設 置を提 案されているが、 国 際 交 流 基 金の海 外 事 務 所や在 外 公 館の広 報 文 化セ ンター等との連 携が 必 要ではないか。</p>	<p>かいがい きよてん お こくさいこうりゅうききん ○海 外に拠 点を置く国 際 交 流 基 金 や在 外 公 館の文 化 広 報セ ンター、(財) 自 治 体 国 際 化 協 会 の海 外 事 務 所 等 に も協 力をお 願 いし、広 く京 都を 発 信することを考 えています。 また、京 都 府は海 外の5つの地 域と 友 好 提 携を結 んでおり、その地 域の 主 要大 学の一 角に京 都情 報 発 信 拠 点を設 けることから始 めたいと考 え ています。</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の 考 え方</p>
<p>てんかい 展 開1： かいがいじんざ 海外人材 しょうち の招 致 すいしん かん 推 進に関 する意見 いけん</p>	<p>にほん わかも の でんとうぶんか ○日本の若 者の伝 統 文化・ さんぎょう かんしん うす 産 業への関 心 が 薄 れる いっぽう がいこくじん なか たか 一 方、外 国 人の中 には高 かんしん しめ もの い関 心を示す者 もあり、こ わかつてしょくにん でんとう れらの若 手 職 人を伝 統 こうげい にな て きょうと 工 芸の担 手として京 都に まね にほんじん きょうみ 招 けば、日 本 人 ももつと興 味 も かんが を 持 つと 考 える。</p>	<p>きょうと にほんけんきゅう きょうとけんきゅう ○京 都が、日 本 研 究、京 都 研 究の きよてん にほんぶんか はっしんち さら 拠 点一 日 本 文化の発 信地 とな り、更 に こくさいてき ちてきこうりゅう きよてん は 国 際 的 な知 的 交 流 の拠 点として はってん せかい さまざま がくしゃ 発 展 するた め、世 界 から様 々な 学 者、 ぶんかじん げいじゅつか つど ぎじゅつ ちしき 文化 人、芸 術 家 が集 い、技 術 や知 識 こうりゅう きょうと すす が 交 流 する京 都 づ くりを 進 めてい きます。</p>
<p>てんかい 展 開2： かいがいじんざ 海外人材 うけいれ の受 入 たいせい 体 制の せいび かん 整 備に 関 する 意見 いけん</p>	<p>かいがいじんざい ちいき ねづ ○海 外 人 材が地 域 に根 付 く ため には、住 宅 整 備の問 題 じゅうたくせいび もんだい が重 要 である と 考 えるの じゅうよう かんが で、是非 住 宅 確 保 に係 る ぜひじゅうたくかくほ かなか と りくみ すす 取 組 を 進 めてほ しい。 かいがいじんざいしょうち うけいれ ○海 外 人 材 招 致 や受 入 がわ きかん だいがく きぎょうとう 側 の機 関 (大 学、企 業 等) かんきょうせいび きょうりょく の環 境 整 備 や協 力 かんけい かんが 関 係 に つい てど のよ うに 考 え ている のか。</p>	<p>がいこくせきふみん じゅうよう もんだい ○外 国 籍 府 民 に 対 して 重 要 な 問 題 の じゅうたくかくほ にんしき ひ と つ が「住 宅 確 保」で あり と 認 識 し て います。 きょうとふ りゅうがくせいじゅうたくほしょう 京 都 府 だ け は、留 学 生 住 宅 保 証 せいど けんきゅうしゃ りゅうがくせい たい 制 度 や 研 究 者 や 留 学 生 に 対 する とくべつちんたいふえいじゅうたくゆうせんわく せつてい 特 別 貸 貸 府 営 住 宅 優 先 枠 の 設 定 たいおう おこな ほん な どの 対 応 を 行 っ てお り ます が、本 プラ ン に お い て も、留 学 生 や 研 究 者 向 け りゅうがくせい けんきゅうしゃむ の 住 環 境 の 整 備 等 に つい て 検 討 を じゅうかんきょう せいびとう けんとう す す 進 め る こ と と し て います。 かいがいじんざい しょうち うけいれ かつよう ○海 外 人 材 の 招 致 ・ 受 入 ・ 活 用 に ぎょうせい きぎょう だいがく つ い て は 行 政 だ け で な く、企 業、大 学、 けいざいだんたいとう きんみつ れんけい 経 済 団 体 等 と の 緊 密 な 連 携 の も と で、そ れ ぞ れ が 主 体 的 に 取 り 組 む こ と と し て います。 きぎょう ○企 業 へ の イン タ ー ン シ ッ プ に つい て も、 じゅうらい しゅうぎょうたいけんがた きぎょう 従 来 の 就 業 体 験 型 か ら 企 業 が のぞ そくせんりょくがた いこう けんとう 望 む 即 戦 力 型 の 移 行 を 検 討 す る な だいがく きぎょうとう こうりょ ど、大 学 や 企 業 等 の ニ ー ズ を 考 慮 す る せさくひょうか と と も に、P D C A サ イ ク ル に よ る 施 策 評 価 おこな すす を 行 い な が ら 進 め ます。</p>
	<p>がいこくじん じゅうきよ ○外 国 人 に 対 して 住 居 の もんだい にほん せいかつ 問 題 が 日 本 での 生 活 の</p>	<p>ほん りゅうがくせい けんきゅうしゃ ○本 プラ ン だ け は、留 学 生、研 究 者 む りょう がくしゅう けんきゅう 向 け の 寮 (セ ミ ナ ー、学 習 ・ 研 究</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の 考 え方</p>
<p>てんかい 展 開 2 : かいがいじんざ 海 外 人 材 うけいれ の 受 入 たいせい 体 制 の せいび かん 整 備 に 関 す いけん る 意 見</p>	<p>いちばんおお かい 一 番 大 き な 課 題 で 有 る。 きょうと こくさいとし 京 都 は、「国 際 都 市」として りゅうがくせいむ りょう けんせつ 留 学 生 向 け の 寮 の 建 設 や「保 証 人」の 確 保 な ど じゅうたくしえんたいせい せいび はか 住 宅 支 援 体 制 の 整 備 を 図 る こ と が 必 要 で 有 る。</p>	<p>きのう そな せつび たんきたいざいしゃむ 機 能 を 備 え た 設 備） や 短 期 滞 在 者 向 け の しゅくしゃかくほ けんとう とく 宿 舎 確 保 に つ い て 検 討 し ま す。 特 に、 りょうりつ ひく こうてきしせつ きぎょう しゃいん 利 用 率 の 低 い 公 的 施 設 や 企 業 の 社 員 りょう かぐ こうりつてきかつよう 寮、リサイクル家具などの効率的活用 たんきしょうへい さんか や 短 期 招 聘 プ ロ グ ラ ム 参 加 者 へ の ていりょうきんしゅくはく 低 料 金 宿 泊 サービス など に つ い て けんとう 検 討 す る こ と と し て い ま す。 れんたいほしょうにん かくほ な お、 連 帯 保 証 人 を 確 保 で き な い りゅうがくせい えんかつ じゅうたく かくほ しえん 留 学 生 に 円 滑 な 住 宅 の 確 保 を 支 援 りゅうがくせいじゅうたくほしょうせいど だいがく す る 留 学 生 住 宅 保 証 制 度 を 大 学 うんえい と と も に 運 営 し て い ま す。</p>
<p>がいこくじん おとず せいかつ ○ 外 国 人 が 訪 れ、 生 活 を ふべん かん にちじょう し て 不 便 を 感 じ な い 日 常 せいかつ きばんせいび そうきゅう 生 活 の 基 盤 整 備 に 早 急 に と く 取 り 組 む べ き で 有 る。 きょうとしょうがくきんせいど ○ 「京 都 奨 学 金 制 度 そうせつ はっそう けいざいりよく 創 設」の 発 想 は、 経 済 力 も きょうと りゅうがく を 持 っ て 京 都 へ の 留 学 を すす 進 め て い く も の で、 そ う で は な きょうとほんらい みりよく く、 京 都 本 来 の 魅 力 を たいがいてき はっしん 対 外 的 に 発 信 し た り、 がいこくじん せいかつ 外 国 人 が 生 活 し て い け る ちいき かんきょうせいび すす 地 域 の 環 境 整 備 を 進 め る こ せんけつ と が 先 決 で 有 る。 りゅうがくせい おお きょうと ○ 留 学 生 の 多 い 京 都 に お きょうと な つ い て 「京 都」と 名 の 付 い た しょうがくきんせいど そうせつ 奨 学 金 制 度 を 創 設 す る の かんが かつ おも は、 い い 考 え 方 で 有 る と 思 きょうとふ きぎょう う。 京 都 府 だ け で な く、 企 業 いっばん きふきん あつ ちいき や 一 般 の 寄 付 金 を 集 め た 地 域 いったい ささ せいど が 一 体 と な っ て 支 え る 制 度 に し て ほ し い。</p>	<p>ほん ざいじゅうがいこくじん かいてき ○ 本 プ ラ ン で は、 在 住 外 国 人 に 快 適 せいかつ きず きばん じょうほうでんたつ な 生 活 を 築 く 基 盤 と し て の 情 報 伝 達 きのう きょうか りゅうがくせい けんきゅうしゃむ 機 能 の 強 化、 留 学 生 や 研 究 者 向 け じゅうかんきょう せいび がいこくじん こ の 住 環 境 の 整 備、 外 国 人 の 子 ども が そだ せいびとう さいゆうせんかだい 育 つ シ ス テ ム の 整 備 等 を 最 優 先 課 題 と けんとう すす し て 検 討 を 進 め て い ま す。 きょうとじょうほう かいがいとう はっしん ○ 京 都 情 報 の 海 外 等 へ の 発 信 に つ たげんごか かいがい い て は、 ホ ー ム ペ ー ジ の 多 言 語 化 や 海 外 で じょうほうはっしんきょてん せつちとう けんとう の 情 報 発 信 拠 点 の 設 置 等 の 検 討 すす きょうと みりよく こうかてき を 進 め て お り、 京 都 の 魅 力 を 効 果 的 に はっしん かんが 発 信 し た い と 考 え て い ま す。 しょうがくきん ゆうしゅう かいがい 奨 学 金 に つ い て は 優 秀 な 海 外 じんざい けんきゅう がくしゅう せんねん 人 材 が よ り 研 究 ・ 学 習 に 専 念 す る ちいき かつせい か こくさいか と と も に、 地 域 の 活 性 化 や 国 際 化 の た め に たよう のうりよく はつき そ の 多 様 な 能 力 を 発 揮 し て も ら え る よ う、 けいざいかい ふみんなどちいきぜんいき しえん 経 済 界 や 府 民 等 地 域 全 域 が 支 援 す る シ けんとう すす ス テ ム と し て 検 討 を 進 め て い ま す。</p>	

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>てんかい 展 開 2 : かいがいじんざ 海 外 人 材 うけいれ の 受 入 たいせい 体 制 の せいび かん 整 備 に 関 す いけん る 意 見</p>	<p>がいこくじんしてい きょういく ○外 国 人 子 弟 の 教 育 かんきょうかいぜん れい きょうと 環 境 改 善 (例「京 都 こくさいがっこう しえん 国 際 学 校」へ の 支 援) や、 こうきょうしせつひょうじ たげんごか 公 共 施 設 表 示 の 多 言 語 化 みんかん ふく ぎむか を 民 間 を 含 め 義 務 化 す る な ぎょうせい てつてい ちいき ど 行 政 が 徹 底 し て 地 域 の こくさいか と く けつい 国 際 化 に 取 り 組 む 決 意 を せいさく めいじ 政 策 と し て 明 示 す る べ き で あ る。</p>	<p>ざいじゅうがいこくじん かか おお もんだい ○在 住 外 国 人 が 抱 え る 大 き な 問 題 この にほんごがくしゅう の 一 と つ で あ る 「 子 弟 の 日 本 語 学 習 しえん ぼごぶんかきょういく とう 支 援 」 や 「 母 語 文 化 教 育 」 等 に つ い て は こ そだ かんきょう 子 弟 の 育 っ 環 境 づ くり の た め、 きょういくきかんとう れんけい ぼご 教 育 機 関 等 と 連 携 し な が ら、 母 語 の きょういんしかくしゃ かつよう はか 教 員 資 格 者 の 活 用 を 図 る な ど の シ ス こうちく けんとう テ ム 構 築 に つ い て 検 討 し ま す。 こうきょうしせつひょうじ たげんご ○公 共 施 設 表 示 の 多 言 語 化 に つ い て も、 かんけいきかん とう れんけい 関 係 機 関 や N P O 等 と も 連 携 し な が ら、 ざいじゅうがいこくじん じょうほうていきょう あわ 在 住 外 国 人 へ の 情 報 提 供 と 併 す す かんが せ て 進 め て い き た い と 考 え ま す。</p>
<p>さいきん しょうがっこうとう ○最 近、小 学 校 等 で こくさいりかいきょういくとう かつぱつ 国 際 理 解 教 育 等 が 活 発 じつし こども いしき に 実 施 さ れ て お り、 子 弟 の 意 識 そだ を 育 て る こ と は す ば ら し い と おも いっぱんふみん おとな 思 う が、 一 般 府 民 (大 人) への ア プ ロ ー チ は ど の よう へ の ア プ ロ ー チ は ど の よう に お こ な う の か。</p>	<p>しょう ちゅうがっこう そうごうがくしゅう ○小 ・ 中 学 校 に お け る 総 合 学 習 じかん きょうとふめいよゆうこうたいし こうし の 時 間 に、 京 都 府 名 誉 友 好 大 使 を 講 師 こくさいりかい いぶんかこうりゅう じぎょう と し て 国 際 理 解 や 異 文 化 交 流 の 事 業 な ど じつし 等 を 実 施 し て い ま す。 また、 いっぱんふみん かつ げんざい ふ ま た、 一 般 府 民 の 方 へ は 現 在、 府 が はっこう こうほうし けいはつし 発 行 す る 広 報 誌 や 啓 発 誌、 テ レ ビ ・ ラ ジ こうほうばんぐみとう そうご じんけん オ の 広 報 番 組 等 で、 相 互 の 人 権 を そんちょう こころ こくさいか 尊 重 し あ う 心 の 国 際 化 に つ い て、 けいはつ 啓 発 し て い ま す。 こんご かいがいじんざい たい ただ 今 後 と も 海 外 人 材 に 対 す る 正 し い にんしきりかい ふみん もと たぶんかきょうせい 認 識 と 理 解 を 府 民 に 求 め、 多 文 化 共 生 しゃかい ふみんごうい すす 社 会 へ の 府 民 合 意 づ くり を 進 め ま す。</p>	
<p>きょうと ○イ ス ラ ム 教 徒 の よ う な しょうすうは みんぞく よう 少 数 派 の 民 族 を ど の よう に あつか しゅうかん しょく 扱 う の か？ 習 慣 や 食 せいかつ こと ひとたち たい 生 活 も 異 な る 人 達 に 対 す はいりよ る 配 慮 が な さ れ る べ き で あ る。</p>	<p>ほん しょうすうは みんぞく ふく ○本 プ ラ ン で は、 少 数 派 の 民 族 も 含 め ざいじゅうがいこくじん きょうとふ こうせいいん た 在 住 外 国 人 を 京 都 府 の 構 成 員 と いち ぶんか たよう はいりよ し て 位 置 づ け、 文 化 の 多 様 性 に 配 慮 し た こうりゅうがたしゃかい けいせい けんとう 交 流 型 社 会 の 形 成 に つ い て、 検 討 すす を 進 め る こ と と し て い ま す。</p>	
<p>か すす ○グ ロー バ ル 化 が 進 ん で い る げんざい かいがいじんざい 現 在、 海 外 人 材 の せつきょくてき う せさく 積 極 的 な 受 け 入 れ 施 策 は、</p>	<p>ほん ざいじゅうがいこくじん あんしん ○本 プ ラ ン で は、 在 住 外 国 人 が 安 心 く かんきょうせいび し て 暮 ら し て い く た め の 環 境 整 備 の ひ と こくさいきょうそうりよく も つ と し て、「 国 際 競 争 力 を 持 っ た</p>	

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>てんかい 展 開 2 : かいがいじんざ 海 外 人 材 うけいれ の 受 入 たいせい 体 制 の せいび かん 整 備 に 関 す いけん る 意 見</p>	<p>じだい なが よ けんめい 時 代 の 流 れ を 読 ん だ 賢 明 な こくさいせんりやく おも 国 際 戦 略 で あ る と 思 う 。 そのためには、多言語による しんり せいど せいび 心 理 カ ウ ン セ リ ン グ 制 度 の 整 備 ちから い に 力 を 入 れ て ほ し い 。 ざいじゅうがいこくじん 在 住 外 国 人 に と つ て は ことば しゅうかん ちが とう 言 葉 や 習 慣 の 違 い 等 さまざま かか 様 々 な ス ト レ ス を 抱 え て い る きがる そうだん ば の で 、 気 軽 に 相 談 で き る 場 が ほ し い 。</p>	<p>みりよく きょういく 魅 力 あ る 教 育 プ ロ グ ラ ム や ま ち づ く り の すいしん かか ふ だいがく じっし 推 進 を 掲 げ て お り 、 府 の 大 学 が 実 施 す だいがくいんせい しんり る 、 大 学 院 生 に よ る 心 理 カ ウ ン セ リ ン グ せいど せいび がくしゅうしどういんせいど かくりつ 制 度 の 整 備 や 学 習 指 導 員 制 度 の 確 立 とう きょういく すいしん たい 等 の 教 育 プ ロ グ ラ ム の 推 進 に 対 す る しえんほうさく けんとう 支 援 方 策 を 検 討 し ま す 。 がいこくせきふみん せいかつそうだん ま た 、 外 国 籍 府 民 の た め の 生 活 相 談 たいせい せいかつじょうほう はっしん 体 制 や 生 活 情 報 の 発 信 (ホ ー ム ペ ー じゅうじつ ジ 、 メ ー ル マ ガ ジ ン 、 F M ラ ジ オ) の 充 実 すす かんが も 進 め て い き た い と 考 え て い ま す 。</p>
<p>りゅうがくせい にほんじんがくせい ○留 学 生 と 日 本 人 学 生 とのコミュニケーションの取れる ば すす だいがく 場 が 少 な い 。 大 学 は も と と せっきょくてき いけんこうかん 積 極 的 に 意 見 交 換 や じょうほうしゅうしゅう ば 情 報 収 集 で き る 場 を ていきょう 提 供 す る べ き で あ る 。</p>	<p>ふだんきょうと した きかい すく ○普 段 京 都 に 親 し ん で い た だ く 機 会 の 少 りゅうがくせいとう きょうと りかい たいかん な い 留 学 生 等 に 京 都 を 理 解 し 、 体 感 していただくための「京都体感プログラ じっし こうてきせつ にゅうじょうりょう ム」の 実 施 や 公 的 施 設 の 入 場 料 わりびき じょうほうていきょうなどさまざま とくてん 割 引 や 情 報 提 供 等 様 々 な 特 典 ふよ りゅうがくせい はっこう を 付 与 す る 「留 学 生 パ ス ポ ー ト」の 発 行 けんとう を 検 討 し て い ま す 。 りゅうがくせい ひつよう じょうほう ま た 、 留 学 生 が 必 要 と す る 情 報 いちげんてき たげんご はっしん じょうほう を 一 元 的 に 多 言 語 で 発 信 す る 情 報 プ ら っ と ホ ー ム の 整 備 を 大 学 と と も に 進 め て い き ま す 。</p>	
<p>りゅうがくせい ○留 学 生 パ ス ポ ー ト に つ い て の 提 案 で す 。 こうてき ①公 的 な パ ス ポ ー ト と し て みぶんしょうめい やくわり は 身 分 証 明 の 役 割 も 果 た せ る よ う な も の に し て ほ ど う か 。 しよじしゃ ていきてき ②所 持 者 に は 定 期 的 に じょうほう おく 情 報 を 送 り 、 イ ベ ン ト さんか へ の 参 加 の き っ か け を つ く る 。</p>	<p>ほん りゅうがくせい ○本 プ ラ ン で は 、 留 学 生 に パ ス ポ ー ト を はっこう しせつ にゅうじょうりょうわりびきとう 発 行 し 、 施 設 の 入 場 料 割 引 等 の とくてん ふよ きょうと ぶんか せんたん 特 典 を 付 与 し 、 京 都 の 文 化 や 先 端 さんぎょう きかい ていきょう 産 業 に ふ れ あ う 機 会 を 提 供 す る こ と を かんが 考 え て い ま す 。 ていあん りゅうがくせい ま た 、 ご 提 案 の よ う な 留 学 生 に と つ ゆうえき じょうほう ていきてき ていきょう て 有 益 な 情 報 を 定 期 的 に 提 供 す る こ と も 考 え て い ま す 。 ほか かんけいきかん りゅうがくせいとう そ の 他 、 関 係 機 関 や 留 学 生 等 の いけん き かつ りょう 意 見 も 聴 き な が ら 、 た く さ ん の 方 が 利 用 で</p>	

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>てんかい 展 開 2 : かいがいじんざ 海外人材 うけいれ の受 入 たいせい 体 制の せいび かん 整備に 関す いけん る意見</p>	<p>さまざま とくてん ふよ ③様 々な特 典を付与し、 きょうと した 京 都に親しむきっかけを つくることで、日本人との こうりゅう きかい ふ 交 流の機会を増やし、 ぶんか そうごこうりゅう 文化の相互交 流へと はってん 発 展させる。</p>	<p>きるパスポートにしていければと思 っ おも ています。</p>
	<p>がいこくじん かん ○これまで、外 国 人 に関す るプランの作 成や外 国 人 む しせつ そうだんまどぐち 向 けの施設、相 談窓 口の せっち すす がいこくじん 設 置が進められたが、外 国 人 し もんだい にあまり知られておらず、問 題 かいけつ を解 決するまでにいたらなか ったことが多いと 考 える。 こんご もんだいかいけつ し 今後は、問 題解 決に資す がいこくじんせんようしせつそうだん る外 国 人専 用施設相 談 まどぐち せっち がいこくじん 窓 口の設 置や外 国 人への じゅうぶん こうほう がいこくじん 十 分な広 報、外 国 人 じょうほうこうりゅう たいせつ との情 報交 流が大 切と かんが 考 える。</p>	<p>ほん ざいじゅうがいこくじん ○本プランでは、在 住外 国 人を きょうとふ こうせいいん いち たみんぞく 京 都府の構 成 員として位置づけ、多 民 族 たぶんか はいりょ たぶんかこうりゅうしゃかい ・多文化に配 慮した多文化交 流社 会 けいせい む けんとう すす の形 成に向け、検 討を進めております。 がいこくせきふみん せいかつそうだん また、外 国 籍府民のための生 活相 談 たいせい せいかつじょうほう はっしん 体 制や生 活情 報の発 信 (ホームペー じゅうじつ ジ、メールマガジン、FMラジオ) の充 実 すす りゅうがくせい ひつよう も進めるとともに、留 学 生が必 要とす じょうほう いちげんてき たげんご はっしん る情 報を一 元 的に多言語で発 信する せいび けんとう プラットホームの整備を検 討します。</p>
	<p>さいきん かいがいじんざい うけいれ ○最 近、海 外 人 材の受 入 ともな がいこくじんはんざいけんすう に伴 う外 国 人犯 罪 件 数 ぞうか なか が増 加しており、中 には きょうあく み 凶 悪なケ ースも見られる。こ りゅうがくせい たい のため、留 学 生に 対して、 ていきてき ほうりつ こうしゅう 定 期的に法 律の講 習や こうえん ほうりつそうだんかい 講 演、法 律相 談会などを じっし ちあん よ 実 施すれば治 安は良 くなると かんが 考 える。</p>	<p>りゅうがくせい がいこくじん いちぶ ひ お ○留 学 生や外 国 人の一 部が引 起 起 しゃかいもんだい とう おお と す社 会問 題が、マスコミ等 で大 しく取 り あ ふ ひる 上 げられ、負のイメ ージも 広 がっています。 かいがいじんざい う い このため、海 外 人 材を受け入れることに ふたん ぞうか ただ よるリ スクや負 担の増 加について正 しく にんしき かいがいじんざい たい 認 識し、海 外 人 材に 対するイメ ージア はか ふみん じゅうぶん りかい もと ッ プを 図 るため、府 民に十 分な理 解を 求 たぶんかきょうせいしゃかい ふみんごうい め、多文化共 生 社 会への府 民合 意づく つと りに努 めます。 たほう にほん せいど ほうりつ ふあんない 他 方、日 本の制 度・法 律に不 案 内 なこ おお かんが そうだんきのう とも多 いと 考 えますので、相 談機 能の じゅうじつ けんとう かんが 充 実について検 討していきたいと 考</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>てんかい 展 開 2 : かいがいじんざ 海外人材 うけいれ の受 入 たいせい 体制の せいび かん 整備に關 する いけん 意見</p>	<p>かいがいじんざい たい ふみん ○海外人材に対する府民 いしき がいこくじんはんざいぞうかとう 意識(外国人犯罪増加等 による負のイメージ)の問題 は重 要であると思う。</p>	<p>えます。</p> <p>してき さいきん とう ○ご指摘のとおり、最近マスコミ等で がいこくじんはんざい ぞうか ほうどう 外国人犯罪の増加が報道され、 かいがいじんざい たい ふ つよ 海外人材に対する負のイメージが強 なっています。</p> <p>がいかくせきふみん たい ただ そのため、外国籍府民に対する正しい にんしき りかい ふみん もと たぶんかきょうせい 認識と理解を府民に求め、多文化共 生 しゃかい ふみんごうい すいしん 社会への府民合意づくりを推 進するため けいはつかつどう いっそうすいしん の啓 発活 動をより一 層推 進します。</p>
<p>てんかい 展 開 3 : かいがいじんざ 海外人材 かつよう の活 用 すいしん かん 推 進に關 する意見</p>	<p>ほん とりくみ かんげい ○本プランの取 組を飲 迎す る。</p> <p>ねん がいこくじん ここ2、3年、外国人 はんざい ほうどう めだ 犯罪についての報道が目立 っており、外国人に対する イメージが悪くなっている。 じじつ ほうどう ひつよう 事実を報道する必 要はある が、日本にいる多くの外国人 が頑 張っている事実も せつきよくてき と あ 積 極 的に取り上げてほしい。 そうごりかい ふか 相互理解を深めるにはマスコ ミの意義も大きいものと考 え る。本プランの推 進にマス コミの協 力も必 要と考 える。</p>	<p>ほん すいしん すす なか ちいき ○本プランの推 進を進める中で、地域で かつやく かがいじんざい かつどう ひろ 活躍する海外人材の活 動を広く しょうかい かいしょう 紹 介し、かたよったイメージの解 消に む とりくみ すす かんが 向けて取 組を進めたいと考 えます。</p> <p>ほん いま ○本プランでは、今までのインターンシッ プとは違 った即 戦 力 型 のものを目指し ちが そくせんりよくがた めざ ており、留 学 生 と企 業 の双 方 にメリ りゅうがくせい きぎょう そうほう ットがある制度を企 業や大 学、關 係 せいど きぎょう だいがく かんけい 団 体 と連 携 して構 築 していきま だんたい れんけい こうちく す。また、海 外 人 材 デー タバ ンク に よ る マ かいがいじんざい ッチングシステムの構 築 を考 えており、 こうちく かんが</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>てんかい 展 開 3 : かいがいじんざ 海 外 人 材 かつよう の 活 用 すいしん かん 推 進 に関 するいけん 意見</p>		<p>きょうときぎょう ひつよう じんざい もと 京 都 企 業 が 必 要 な 人 材 を 求 め る こ と こうちく けんとう が できる システム 構 築 を 検 討 し て い ま す 。</p>
	<p>だいにほん ○大 日 本 スクリーン と りつめいかんだいがく きぎょう 立 命 館 大 学 で は、企 業 と りゅうがくせい 留 学 生 に つい て の ユニーク とりくみ ぜひ な 取 組 を し て い る の で、是 非 さんこう 参 考 に し て ほ し い 。</p>	<p>かいがいじんざい きぎょう ○海 外 人 材 と 企 業 の マッチング に つい て は、企 業 ニーズ を 十 分 に 調 査 し な が すす ら 進 め て い き ま す。京 都 の 企 業 の い ろ とりくみ さんこう い ろ な 取 組 を 参 考 に さ せ て い た だ き、 また、本 プラン の 推 進 に 協 力 を お ねが 願 い し た い と 考 え て い ま す 。</p>
	<p>きょうと たすうだいがく ○京 都 に は 多 数 大 学 が あ り、 さまざま りゅうがくせい まな 様 々 な 留 学 生 が 学 ん で い る が、多 く は、日 本 人 や きょうときぎょう ふ あ きかい 京 都 企 業 と 触 れ 合 う 機 会 が すく なつやす ふゆやす 少 ない。夏 休 み や 冬 休 み な ちょうききゅうか りよう ど の 長 期 休 暇 を 利 用 し て イ ンターシップ に 参 加 し、 さんがくれんけい すす 産 学 連 携 を 進 め て い く こ と りゅうがくせい きぼう を 留 学 生 は 希 望 し て い る きょうときぎょう とく し、京 都 企 業 (特 に ちゅうしょうきぎょう やくだ 中 小 企 業) に も 役 立 つ こ と と 考 え る。また、留 学 生 しょうがくきん しきゅう へ の 奨 学 金 を 支 給 す る こ ゆうしゅう じんざい あつ と で 優 秀 な 人 材 が 集 ま る かんが と 考 え る 。</p>	<p>せいど どうにゅう ○インターンシップ 制 度 の 導 入 に つい て かんけいしや き いま は、関 係 者 の ニーズ を お 聞 き し な が ら、今 ちが ま だ の インターシップ と は 違 っ た そくせんりよくがた めぎ ちょうき 即 戦 力 型 の も の を 目 指 し て お り、長 期 きゅうかちゅう かいがい さんか かのう 休 暇 中 の 海 外 からの 参 加 を 可 能 に す る せいど けんとう すす た め の 制 度 の 検 討 を 進 め て い き た い と かんが 考 え て い ま す。 けいざいかいなど れんけい きょうと ○経 済 界 等 と の 連 携 に よ り、京 都 どくじ しょうがくきんせいど そうせつ 独 自 の 奨 学 金 制 度 の 創 設 な ど りゅうがくせい せいかつしえん じゅうじつ 留 学 生 の 生 活 支 援 を 充 実 さ せ る こ けんとう と を 検 討 し ま す 。</p>
	<p>かいがいじんざい ぼしゅう ○海 外 人 材 を 募 集 し た い きぎょう れんけい きゅうじん 企 業 と 連 携 し て、求 人 ようこう だいがく こくさいか 要 綱 な ど を 大 学 の 国 際 課 に はいか ひつよう 配 架 す る 必 要 が あ る 。</p>	<p>かいがいじんざい きぎょう ○海 外 人 材 と 企 業 の マッチング に つい て は、企 業 ニーズ に 沿 っ た システム を 構 築 こうちく し て い く 必 要 が あ り、海 外 人 材 データ ひつよう かいがいじんざい バンク に よ る マッチング システム を ウェブ サイ じょう こうちく きょうときぎょう ト 上 に 構 築 す る こ と に よ り、京 都 企 業 ひつよう じんざい もと が 必 要 な 人 材 を 求 め る こ と が できる 仕 組 けんとう み づ ぐ り を 検 討 し て い ま す 。</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>てんかい 展 開 4 : ちいき 地 域が いったい 一 体とな すいしん った推 進 かん に 関 する いけん 意 見</p>	<p>ほん ふくすう しゅたい ○本 プランは、複 数の主 体 そうご きょうりょく じっし が相 互に協 力して実 施す ることとなっているが、統 括 とうかつ する窓 口やそれぞれの主 体 まどぐち しゅたい の役 割を明 確にするべきで やくわり めいかく ある。</p>	<p>ほん ぎょうせい けいざいだんたい ○本 プランは、行 政・経 済 団 体・ きぎょう だいがく けんきゅうきかん だいがく 企 業・大 学・研 究機 関・大 学コン ソーシアム・NPO 等 で組 織する団 体によ うんえい とう そしき だんたい り運 営していきたいと 考 えています。 また、個々の事 業に係る推 進方 法に ここ じぎょう かか すいしんほうほう つについては、その団 体の中 明 確に定 め だんたい なか めいかく さだ たいと 考 えており、民 間団 体等の知 恵 かんが みんかんだんたいとう ちえ ちから か じぎょう すす と 力 をお借 りして事 業を 進 めていき かんが たいと 考 えています。</p>
	<p>たぶんかきょうせいきほん ○「多文化共 生基本 じょうれい けんとう も こ 条 例」の検 討が盛 り込まれ さくてい ているが、策 定にあたっては、 こくさいてき ぶんかこうりゅう してん 国 際 的な文化交 流の視 点 がいこくじん きほん だけでなく、外 国 人の基本 てきじんけん はいりよ 的 人 権に配 慮してほしい。 りゅうがくせい う い ○留 学 生などを受 け入れて たぶんかきょうせい ひじょう の多文化共 生は非 常に ひつよう じゅうきよ 必 要なこ としてあるが、住 居 ふそく しゅうしょく が不 足している、就 職の きかい じゅうぶん 機 会が十 分でないなどの ちよくせつてき もんだい とうめん 直 接 的な問 題が当 面す かだい がいこくじん る課 題である。外 国 人の うけいれ さまざま いけん 受 入については、様 々な意 見 おも ま りねん があると思 う。先 ず理 念よりも ぐたいてき せさく なに 具 体 的な施 策について何 をす けんとう かいけつ べきかを検 討し、解 決すべ きである。 がいこくじん かがた たちば た ○外 国 人の方 々の立 場に立 きょうとふ ったやさしい京 都 府づくりを すす 進 めてほしい。</p>	<p>じょうれい こんご もと ○条 例については、今 後プランに基 づく とりくみ すす なか さくていいん 取 組を 進 める中 で、策 定 委員を はじめ ふみん みな いけん じゅうぶん き とする府 民の皆 さんの意 見を十 分に聞 く すす かんが ことか ら進 めていきたいと 考 えています。</p> <p>ざいじゅうがいこくじん きょうとふ こうせいいん ○在 住外 国 人を京 都 府の構 成 員と いち たみんぞく たぶんか はいりよ して位 置づ け、多 民 族・多 文化に配 慮し こうりゅうがたしゃかい つと た交 流 型 社 会づ くり に努 めます。</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>とう プラン等の こうほう かん 広 報に 関 する意見 いけん</p>	<p>○アクションプランの ちゅうかんあん えいやくばん さくせい 中 間 案の英 訳 版を 作 成 だいがく けんきゅうしょ はいふ し、大 学や研 究 所に配 付 するなど、できるだけ 広い 範 囲 ひろ はんい の 外 国 籍 府 民の 意 見を がいこくせきふみん いけん の 外 国 籍 府 民の 意 見を ちようしゅ そち と 聴 取 できる ような 措 置 を 取 っ て ほしい。 がいこくせきふみん ふせい さんか ○ 外 国 籍 府 民が 府 政に 参 加 ば こえ ちよくせつき できる 場、声 を 直 接 聞 ける ば もう 場 を 設 けて ほしい。</p>	<p>ほん さくてい いいん めい ○ 本 プラン 策 定 の 委 員 には、2 名 の がいこくせき かつ ねが いけん はんえい 外 国 籍 の 方 にお 願 いし、意 見 を 反 映 さ せて います。 ふみん いけんぼしゅう にほん また、府 民 の 意 見 募 集 にお いては、日 本 ご ほか えいごおよ つ 語 の 他 に、英 語 及 び ふりが な 付 き の も の で じっし ほか がいこくせきふみん 実 施 いた しま した。そ の 他 に、外 国 籍 府 民 しえん だんたい ふないだいがく を 支 援 する NPO 団 体 や 府 内 大 学 の りゅうがくせいとう たい いけん うかが 留 学 生 等 に 対 して も 意 見 を 伺 っ た と こ ろ で す。 ふみんさんかく すず なか さまざま きかい ○ 府 民 参 画 を 進 め る 中 で、様 々 な 機 会 とら がいこくせきふみん かつがた ふせい を 捉 えて 外 国 籍 府 民 の 方 々 の 府 政 へ さんかく すいしん かんが の 参 画 を 推 進 して い きたい と 考 えて い ま す。</p>
<p>にほん ○このプランは日本への りゅうがくせい よ 留 学 生 に と っ て、と て も 良 い こと だ と 思 う。この プラン を おも お お りゅうがくせい 多 くの 留 学 生 に PR する こ ひつよう と が 必 要 である。</p>	<p>○このプランは日本への りゅうがくせい よ 留 学 生 に と っ て、と て も 良 い こと だ と 思 う。この プラン を おも お お りゅうがくせい 多 くの 留 学 生 に PR する こ ひつよう と が 必 要 である。</p>	<p>ほん ちゅうかんあん ふない ○ 本 プラン 中 間 案 につ いて は、府 内 こうきょうしせつ だいがくりゅうがくせいか みんかん 公 共 施 設、大 学 留 学 生 課、民 間 こくさいこうりゅうだんたい けいざいだんたいとう たい 国 際 交 流 団 体、経 済 団 体 等 に 対 して、広 く 周 知 を 図 り ました。 ひろ しゅうち はか また、にほんご つ えいご また、日 本 語 の ほか、ふ り が な 付 き、英 語 ばん さくせい きょうとふ 版 を 作 成 し、京 都 府 の ホー ム ペー ジ に お いても 掲 載 して います。 けいさい こんご ほん こうほう いっそうつと 今 後 も、本 プラン の 広 報 に 一 層 努 め ま す。</p>
<p>た その他 ぜんぱんてき 全 般 的 な いけん 意 見</p>	<p>きょうとし きょうとしこくさい ○ 京 都 市 には 京 都 市 国 際 こうりゅうかいかん 交 流 会 館 が あり、 りゅうがくせい こうりゅうじぎょう 留 学 生 と の 交 流 事 業 とう じっし きょうとふ 等 を 実 施 して いる。京 都 府 や きょうとふこくさい 京 都 府 国 際 センター と の きょうりょく ちようせい ひつよう 協 力 ・ 調 整 が 必 要 で かんが あ る と 考 える。</p>	<p>ほん ぎょうせい きぎょう かんけい ○ 本 プラン は、行 政、企 業、関 係 だんたい とう きんみつ れんけい 団 体、NPO 等 の 緊 密 な 連 携 の も と で、 しゅたいてき さんかく そうご りえき そ れ ぞ れ が 主 体 的 に 参 画 し、相 互 に 利 益 え かんけい こうちく めざ を 得 る 関 係 を 構 築 する こ と を 目 指 して お り、他 の 市 町 村 や 団 体 と も 十 分 た しちようそん だんたい じゅうぶん ちようせい と く かんが 調 整 し つ つ、取 り 組 ん で い きたい と 考 え て います。</p>
	<p>せつきよくてき ○このプランは、積 極 的 で ぐたいてき けいかく も こ 具 体 的 な 計 画 であり、盛 り 込 ま れ たい と 考 える。</p>	<p>ほん きょうとふ ○ 本 プラン は、京 都 府 の アクシ ョ ン プラン ひと さくてい かくぶんや の 一 つ として 策 定 する も の であり、各 分 野</p>

<p>こうもく 項 目</p>	<p>いけん ようし 意見の要旨</p>	<p>ふ かんが かつ 府の考 え方</p>
<p>た その他 ぜんぱんてき 全 般的な いけん 意見</p>	<p>けいかく じっし まれている計 画が実施される ことよって、きょうと ちいき 京 都の地 域の かつせい かくさい つか 活 性化と国 際化に繋 がる かんが 考 えられる。</p>	<p>かつやく せんもんか で活 躍されている専 門 家をはじめとして、 おお ふみん ぎろん おこな 多 くの府 民とオ ー プンな議 論を 行 い、 ぐたいてき せさく ていげん 具 体 的 な施 策を提 言するもの ほん も こ せさく 本 プランに盛 り込 まれた施 策に すみ じつげん かんが できるものから速 やかに実 現し えてい ています。</p>
	<p>おも ○すばらしいプランであると思 うが、どのくらいの期間を想 定 しているのか。</p>	<p>ぐたいてき きかん さだ ○具 体 的 な期 間 は、定 めて そうきゅう せさくとう 早 急にしなければなら じっこう うつ ふ に実 行に移 せるものにつ ざいせいじょうきょう かんあん すす 財 政状 況を勘 案しながら、 い きます。 まいとしほん じぎょうひょうか また、毎 年本 プランの事 業評 価を じっし じねんど せいさく 実 施し、次 年度の政 策につな いでい ています。</p>